連携システムについて

慶應義塾大学　政策・メディア研究科
特別研究講師　内山映子

今日の在宅療養では、常時複数の医療・介護サービス提供者が一人の利用者（患者や要介護者）を支えることが一般的です。しかし同じ利用者に対する医療や介護のサービスは、それぞれ異なる曜日や時間、異なる場所（医療機関や介護事業所、あるいは自宅）で提供されているため、異なる職種や組織に所属するサービス提供者が、自施設以外での利用者の様子を知ることは難しく、利用者の全体像を把握しきれないままにサービスを提供しているのが現状です。また、サービス利用者やその家族は、サービス提供者とのコミュニケーションが不十分だということに、不安や不満を感じています。サービス提供者としても、十分なコミュニケーションが重要であることは認識していますが、担当している利用者数や業務量の多さから、一人一人の利用者と向き合って話す時間を確保することに限界を感じています。

そこで SFC 研究所では、インターネットを介して、1 人 1 人の利用者の医療や介護福祉に関わる関係者と、本人、さらには家族との間で情報とコミュニケーションを共有できる情報システム MYSSI(ミッシー：My Staff Members and I の略)を 2002 年度に開発し、実際の在宅改良や在宅介護の場での実証を通じて改良を重ねてきました。この情報システムには、以下の三つの特徴があります。

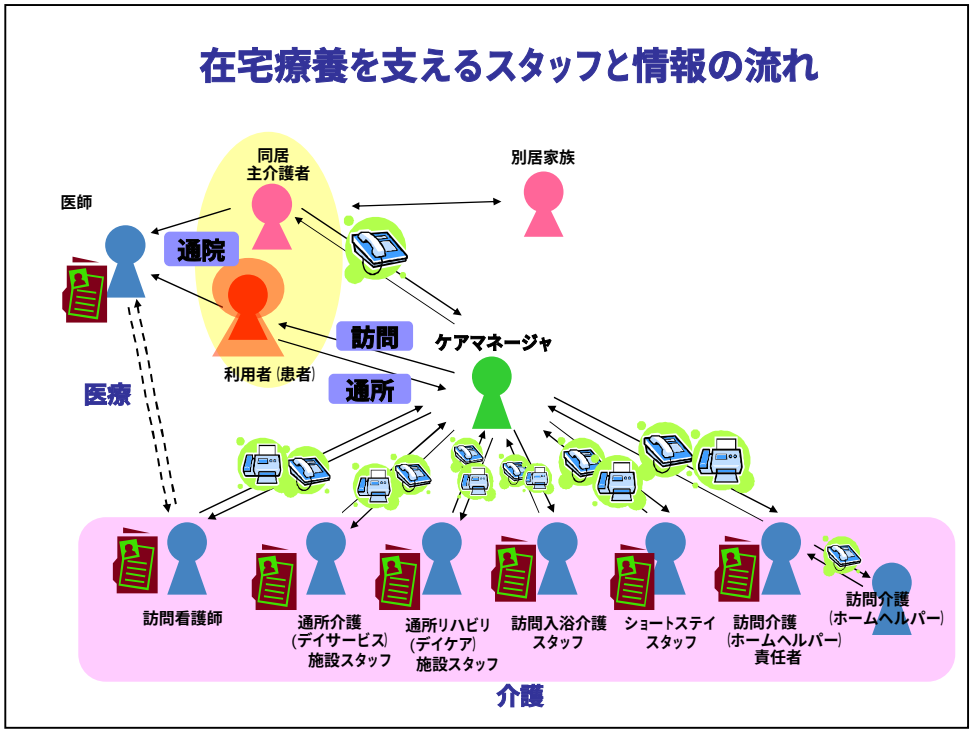
１点目は、利用者中心型の情報システムである点です。これまでの提供者中心型システムでは、利用者の情報は医療機関や介護事業所等に分散していました。MYSSI では、これらの情報を利用者のイニシアティブに基づいて統合し、関係者間の情報やコミュニケーションを共有することができるようにしたことに加え、さらには、利用者が医療や介護で担当者や利用する組織が変更になっても、いつでも自分の情報を利活用することを可能にしました。

2 点目は、個人情報の自己コントロール権を尊重した情報の取り扱いを実現している点です。自己コントロール権とは、自分に関する情報を本人の意思に沿って取り扱うことができる権利のことです。MYSSI では、個人情報の保護と流通のための意思決定および実際の設定を、利用者だけが行えるしくみを採用しています。利用者が判断できない場合には、代理人が本人に代わってこの権利を行使することができます。この意思決定のプロセスをシステムに反映させる技術的手段については、慶応義塾から特許を申請しています。

３点目は、情報の共有だけでなく、コミュニケーションの共有も実現している点です。診療やケアに関する情報を得ることができるようになれば、その内容を読んだ人や記録した人の間で、質問や相談、連絡等が派生してきます。MYSSI では、これらのコミュニケーションも必要に応じて関係者との間で共有することができます。1 対１、1 対多のどちらの方法でもコミュニケーションできる機能を設けました。

また情報システムを利用するには、システム以外にもさまざまな体制の整備が必要となります。例えば、システムの管理や改善、ユーザに対するＩＴ利用面や、コミュニケーションのしかたについての教育やサポート、こうした教育やサポートを行うための人材育成、ユーザ拡大のための啓発活動、運用資金の獲得や事業体制づくり、また体制の運営方法等です。これらがすべて揃ってはじめて、情報システムが維持継続なものとなると考えているため、今回の協働では、これらの体制づくりを含めた総合的な体制を「連携システム」と名づけ、情報システムとは区別しています。

以上のように、鎌倉市と SFC 研究所は、情報システム MYSSI を核として、地域を基盤とした医療・介護・福祉サービスにおいて、関係者間の情報共有やコミュニケーションを十分に行える地域の連携システムづくりを目指し、体制の整備、充実や情報システムの改善など、この連携システムの実用化に向け、今後さまざまな実証的研究活動を行っていくこととします。



MYSSI（My staff members and I）における サービス利用者と提供者の新たな関係性

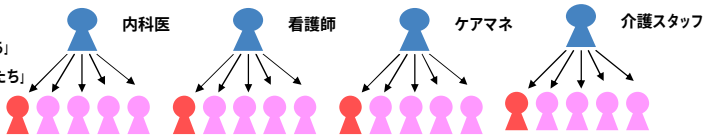
1）利用者を中心として、利用者のケアに関わるすべての医療・福祉・介護関係者を位置づけて考える

2）関係者間の情報やコミュニケーションの流通を効率的、かつ円滑に行うしくみを用いて、提供者側にはサービスの質向上と業務効率化、利用者側にはより安心・安全な在宅生活の実現をめざす

従来の関係性

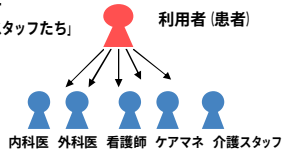
「私（医療職）と私の患者たち」

「私（介護職）と私の利用者たち」

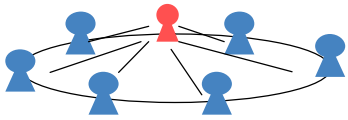


提案する関係性

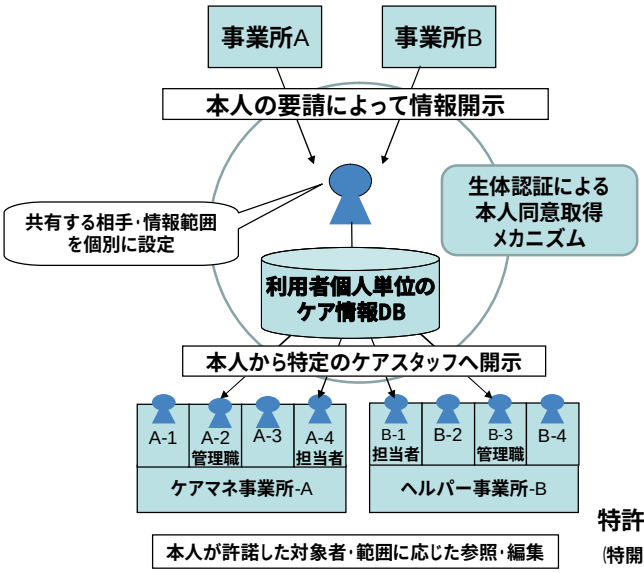
「私（利用者）と私のスタッフたち」



MYSSI型共有モデル



利用者中心コンセプトの具体化



特許申請済

（特開2005-025674）